

キャラクターお守りと 現代の人々のお守りに対する認識

並羅 理陽

(手塚 恵子ゼミ)

目次

はじめに	
第1章 お守りとキャラクターお守りについて	
第1節 お守りとは	
第2節 キャラクターお守りとは	
第3節 お守りの歴史	
第2章 お守り袋について	
第3章 お守りとキャラクターお守りの比較	
第1節 お守り・キャラクターお守りの中身	
第2節 キャラクターお守りの定義	
第4章 お守り袋とキャラクターお守り	
第1節 キャラクターお守りの立ち位置	
第2節 聞き書き 神社のキャラクターお守り	
第3節 聞き書き お守り袋から考えるキャラクターお守り	
第4節 一般的なお守りとキャラクターお守りについてのまとめ	
第5章 推し文化との関係性	
第1節 推し文化との共通点	
第2節 アイドル・キャラクターの神聖化	
第3節 店舗で販売されるキャラクターお守りの需要	
おわりに	

はじめに

多くの人々が1つは持っていると思われるお守りは、現在でも多くの人々に求められ続けている。お守りには様々な種類や形のものがあるがこの論文においては、主に社寺にある紐で口を閉じた小さい袋型の縦に細長い形のお守りを一般的なものとして取り扱う。

お守りといえば、社寺で取り扱われ、伝統的・古典的な西陣織などの布製の柄の一般的なものを想像する人も多いだろう。しかし、それだけでは

なく有名なアニメのキャラクターが描かれたキャラクターお守りも存在する。また、社寺以外にも社寺とは全く関係のないような店舗でもキャラクターお守りが見られる。

これらはこれまでの伝統的・古典的なものとはかけ離れており、宗教的な要素があまり感じられず、商業主義的な要素が見られる。ではこれらのキャラクターお守りを中心とした特殊なお守りはなぜ誕生したのか。そして、そこから現代の人々がお守りに対してどのような認識を持っているのかを考えていく。

第1章 お守りと キャラクターお守りについて

第1節 お守りとは

お守りとは、厄除けや招福などの願いを形にした縁起物であり、神仏の力が宿っているとされていると一般的にいわれている。持つことによって、厄除けや無病息災など予防的な願いをしたり、学業成就や安産祈願、健康祈願、恋愛成就、商売繁盛、交通安全などの願望をし、より高めることができる。一般的なお守りは神社や寺院で受ける。社寺で作成される守札は、紙・木・金属で作られており、通常は布製の袋に納められている。形も綿などで作られた布製の袋だけではなく、キーホルダーやペンダントなど様々な物がある。『國史大辞典2』ではお守りについて、「常時身につけることによって、宗教上の超自然的な力を得、人間の力プラス神仏の力で、災厄から免れ、効験を得ると信ぜられるもの。」(『國史大辞典2』1980、913頁)とあり、お守りに対してこのような神仏の力がお守りやお札に宿っているという認識は現在でも残っている。

第2節 キャラクターお守りとは

キャラクターお守りとは、ここでは先ほども記したように、社寺で取り扱われているような、紐で口を閉じた小さい袋型のお守りの袋（外側）にアニメや日本国内でも有名なキャラクターがデザインされている物のことである。お守り袋の表側にはキャラクターのデザインがあり、裏側には、神社名や健康祈願・恋愛成就といったような一般的なお守りにも見られる内容が記されている。販売されている場所としては、キャラクターお守りを扱う神社や寺、その他にも主に店舗やガチャガチャなどにも見られる。

神社で取り扱われているものとしては、キティちゃんやサンリオなどといった日本でも有名なキャラクターが描かれている。また、ウルトラマンやゲゲゲの鬼太郎といったような世間的にも知名度が高いと思われるアニメのキャラクターが描かれているものもある。取り扱っている神社・寺は各地域で見るとそれほど多くは無いが、全国に及ぶほどである。一般的なお守りと比べても特に特別な値段が設けられているわけでもなく、同じ値段で取り扱われており、取り扱われている場所も一般的なお守りと同じである。

店舗で販売されているお守りとしては、おもちゃなどを開発する株式会社提供しているものである。主にアニメのキャラクターが描かれているお守りが多い。妖怪ウォッチや鬼滅の刃、呪術廻戦といったような世間で一躍大ブームを起こし、知名度を獲得したアニメが主に商品化されている。それ以外にも世間的に知名度はそれほどないと思われるような一部のコアなファン層に人気の高いアニメのキャラクターのお守りもある。アニメのキャラクターの絵柄とともに健康祈願などといったような願い事が記されていたり、そのキャラクターの名前、また、そのキャラクターの性格を表した言葉や関連した四字熟語が記されているものもある。

第3節 お守りの歴史

神社で取り扱われているお守りには一般的にはお札（護符）が入っている。お守りとはお札を小型化し、袋に入れて持ち歩くことができるようにしたものである。元々は自然物である木や土など

が持つエネルギーを頂き、そこから守護してもらうというような考え方があり、実際にそのようにして生活の中に取り入れられていた。

そのようなお守りがいつから存在していたのかについて、人々のお守りに対する考え方は縄文時代からすでにあつた。縄文時代、人々は生活する中で勾玉を身に付けていた。目的は魔除けなどの身の安全を守るためである。「守りの古くは自然物であった」（福田 2013、65 頁）と福田博美が述べるように、勾玉の他にも宝石や刀、鏡などの神が降臨しやすく、霊力などのエネルギーを授かることができやすい自然物をお守りと認識していた。お守りの起源について、『日本民俗大辞典 上』では、お守りの概要の中で「もともとは中国での陰陽道の符咒・護符に起源があるといわれる。その後、陰陽道・仏教の伝来とともに伝わり、神社においても神名や神語が書かれた守札が作成されるようになった。」（『日本民俗大辞典 上』1999、281 頁）と記している。中国での陰陽道の符咒・護符に関連しているものとして呪符が挙げられる。呪符とは、中国三大宗教の1つである道教の方術（占いなど）のための文字や符号を記した札のことである。中国の道教信者はこの呪符を用いて占いやおまじないを行っていたとされ、医療などでも使用されるなどお札としての意味合いが強かった。そのような陰陽道・仏教の伝来によって、寺院にお札が配られるようになっていった。陰陽道・仏教の伝来は6世紀頃であり、その頃からお守りは勾玉などの自然物から文字・符号が記されたお札のような形をしたものへと変わっていく。

そして8世紀の終わり頃に長岡京跡から呪符木簡（木のお札）が発見される。この呪符木簡について「長岡京における天然痘の蔓延を鑑みるに、病氣平癒を願って身につけられたお守りの原型と考えられる。」（鳥居本 2022、26 頁）と鳥居本幸代は述べる。呪符木簡が発見された当時は天然痘といわれる疫病が流行しており、そのお札にはそのような病気を退けてくれる「蘇民将来之子孫」という神様の名が記されていたことから当時の人々は病氣平癒や疫病退散のためにお札を身に付けており、疫病の流行がお守りを流行させた理由の一つではないかと考えられる。

さらにお守りが広まったのは平安時代の平安貴

キャラクターお守りと現代の人々のお守りに対する認識

族の間であるといわれている。平安時代には、お守りは病氣平癒に加え、恋の願いを懸けるものとしても使用されていた。「守袋の変遷—懸守から胸守へ—」にも「平安時代前期すでに守りは恋の願いを懸けるものとして詠まれていた」（福田 2013、65 頁）と記されている。この時代には、恋愛を扱った「源氏物語」や「枕草子」からも分かるように平安貴族の間で恋愛が主流となり、恋の成功のために物詣をする者が多かった。この時代の人々は恋愛成就としてお守りを認識していたのではないかと考えられる。平安時代後期には、守り袋の両端に緒をつけ、首に懸けるという「懸守」の形として存在していた。懸守は筒状の布袋に神様や仏様の像や紙のお札を入れ、首に懸けるものである。『國史大辞典 2』には「四天王寺（大阪）には平安時代の貴族が用いたと思われる懸守が七懸あり、いずれも国宝に指定されている。」（『國史大辞典 2』1980、913 頁）と記載されており、平安貴族の女性の間で広まっていたとされる。

鎌倉時代には、この時代にあった絵巻物（『北野天神縁起』『住吉物語絵巻』など）の中に懸守が登場することが多いとされた。（福田 2013、66 頁）これらに見られる懸守は女性や子どもの服装（特に旅行する際の旅装）に多く見られ、このことから危険の多い道中の安全を祈って、身に付けていたとされる。この頃のお守りは、人々は「道中の安全を願って」いたことから特に交通安全としての意味を持っていたと考えられる。

室町時代には、巫女が神寄せ・仏下ろしの際に懸守を懸けていたとされている。（福田 2013、67 頁）悪霊から身を守る、厄除けを願うことを目的として、懸守を用いていたと考えられる。

江戸時代に入ると各地にある神社や寺院を多くの庶民が訪れるようになる。「江戸時代に入ると社寺への参拝は一般庶民にも広がり、身に迫る危険も少なくなっていくようである。」（鳥居本 2022、128 頁）と鳥居本幸代は述べる。このように神道や仏教の信仰は、天皇や豪族などの上層階級や武士などを中心に行われていたが、この時代の頃には庶民層にも広がった。道中での安全を願うという目的で使用されていた懸守は、身の危険を感じることなく外出・参拝ができるようになり、庶民層などの多くの若者に使用されるようになった。

た。病氣や悪霊から自分自身を守る術の1つであったお守りは庶民の様々なニーズに対応するものへと変化していった。また、「神社や寺院を訪れば、その証としてお札やお守りを求めるようになる。それは、参詣者自らのものだけではなく、郷里で帰りを待つ人々に対する土産でもあった。」（鳥田 2022、27 頁）と鳥田裕巳が述べるように、社寺へ訪れたことへの証明をするための物、そして、自分自身から他者へと渡すという認識がこの頃からすでにあったということが分かる。

また、江戸時代の後期になると「懸守は儀式用となり、それに変わって日常懐に入れられる胸守が懸けられるようになった。」（福田 2013、67 頁）とあるように胸守が日常的に使用されるようになった。その他にも肌身に付ける肌守や腕につける腕守もこの頃に見られた。胸守や肌守は現在の一般的なお守りの形に近いものとなっている。この時代では主に下着の上などに着けることが多く見られた。こうして、首に懸けられた懸守は近世以降、肌につける、懐に入れる胸守や肌守へと変わっていく。さらに、お守りを袋に入れ、紐で帯に下げてぶら下げるようになる。現在でもお守りを鞆などにぶら下げるといったものを見かけるが、これは江戸時代にお守りを懸けることから肌につける、懐に入れる、帯などに下げることへと変化したことが影響で、現在もこの風潮が続いていることが考えられる。

その後の明治時代には、守り巾着と呼ばれるものが登場した。普通は木型が用いられ、茶を詰めて肉を出す形の上等品のものもある。（鳥居本 2022、159～160 頁）さらに昭和時代になると、印籠型のお守りが登場した。これは現在の社寺でも見られるものである。そして、1980 年代以降、身体に装着するものだけでなく、財布などに携帯するカード型のものも登場した。携帯電話が小型化して一般に普及されるようになった 1990 年代からはストラップ型のものも現れ、お守りの小型化が進んだ。他にも車が普及するにつれて、車内に下げる交通安全の木札型のお守りや車体に貼り付ける交通安全のステッカーといったものや、さらにブレスレット型のもので登場するなど（鳥居本 2022、165～167 頁）、近世においてお守りは多様化していった。また、お守りの目的も人に

よって、さらに時代によって変わっていることが分かる。

第2章 お守り袋について

お守り袋はお守りに個性を出すとても重要なものである。特にキャラクターお守りにおいては、外側のキャラクターの絵柄が印象的である。この章ではお守りの見た目や印象を決定づけるお守り袋について着目していこうと思う。

お守り袋とは、中に護符を入れて身に付ける袋である。西陣織の技術を活かした布や錦、金襴などで作られており、縁起の良い結び方をした紐が使われている。現在ではお守り袋に護符・お札が入ったものが一般的なお守りの形となっている。『國史大辞典 13』では、お守り袋について、「日本では、さまざまなものを依代として神仏が宿ると考えた。それで災を防ぐために、これを金襴などのきれで縫った袋に入れて持った。」(『國史大辞典 13』1992、199～200頁)とある。

お守り袋は前章のお守りの歴史でも記したように平安時代の女性貴族たちの間で使われ始めた。護符・お札、神仏の像を筒状の袋に入れ、首から懸けていた。これが懸守である。その後、江戸時代には当時の人々が護符・お札をお守り袋に入れて懐中に忍ばせるなどしていた。これらは胸守や肌守と呼ばれ、現在のお守り袋のように布製の袋が用いられていた。「平安時代に胸元に懸けた懸守は江戸時代に至って、いっそう、装飾的で華麗なものへと進化していった。」(鳥居本 2022、135頁)とあるように見た目の面でより華麗なものへと変化していったといえる。お守りが広まり始めたこの頃は神仏の護符を入れたお守り袋は外出に際して携帯されることが多く、日常的に身に付けられるようになり、お守りの小型化が進むなど、携帯しやすいものへと変化していった。さらにこの頃に社寺への参拝が流行し、このことについて「懸守から胸守への変遷における社会的背景には信仰との関わりがみられ、特に社寺参詣の普及は、守袋の一般化を促すものである。」(福田 2013、70頁)と福田博美は述べる。こうしたお守り袋の一般化はこれまで胸守を扱っていた上級の身分の人々だけでなく、庶民にまで、多くの人々に及

んだ。江戸時代の末期には護符を入れたお守り袋は帯に下げようになり、一般的に神社や寺などで見られる現在のお守り袋と似た袋物であった。

明治時代になるとお守り袋は「守巾着」と呼ばれる。明治時代から大正時代にかけては、赤色や緑色の下げ紐付きの守り巾着が専門店や老舗、百貨店で販売されていた。お守り袋は、平安時代以来の懸守のように購入者が信仰する社寺の護符を入れるということが受け継がれている。また、ジャガード織機の導入によって複雑な紋織物の大量生産が西陣で可能となり、お守り袋を専門に制作する会社が明治維新以降に誕生した。そこで印籠型のお守り袋も生まれた。(鳥居本 2022、159～164頁)

そして、昭和時代に入り、1955年から1973年頃の高度経済成長期には、現在もよく見られる一般的な、紐で口を閉じた小さい袋型の縦に細長い形のお守りが登場するようになる。1958年(昭和33年)頃には袋に社寺名を入れるようになり、1973年(昭和48年)頃には袋に「交通安全」や「学業成就」、「家内安全」、「身体健康」などの願い事が織り込まれるようになった。これらは京都の西陣の織物業者によって考案された。(鳥居本 2022、165頁)

お守りが誕生した時から現代にかけて、お守りは小型化など、様々な形の物が作られるようになり、それぞれの時代のニーズに対応しながら進化・多様化しており、現代でもその進化・多様化は進んでいる。それに合わせてお守り袋もお守りに対応した物が作られていった。お守り・護符を入れるための物であったお守り袋は、時代を経ていくごとに様々な形が増えたお守りと共に、中身だけでなくお守り袋の表面・絵柄も様々なものが増え、お守り・護符を入れるという目的は変わらずとも、ただの袋ではなく、お守りをよりよく魅せる、お守りに個性を出す、その神社や寺だけのお守りにするなどといった役割も持つようになったのではないかと考える。このように昔と現在ではお守りそのものだけでなく、お守り袋の認識も変わっている。

第3章 お守りと キャラクターお守りの比較

第1節 お守り・キャラクターお守りの中身

お守りとキャラクターお守りについて、そしてお守り袋について記したが、お守りとキャラクターお守りの共通点と相違点については主に何なのか。この章では3種類のお守りから見ていこうと思う。(以下の図1～10については論文末の【図一覧】参照。)

(図1)は、一般的なお守り、(図2)は、神社で取り扱われているキャラクターお守り、(図3)は、店舗で販売されているキャラクターお守りである。これら3種類のお守りから共通点や相違点をそれぞれ明らかにしていく。

まず、これらのお守りに全て当てはまる大きな共通点としては、お守りの外側の形である。これらはどれも一般的な形である紐で口を閉じた小さい袋型である。これらのお守りから分かるように、形の点ではお守りもキャラクターお守りも変わりはない。

お守りとキャラクターお守りの大きな違いとしては見た目であり、表面にキャラクターが描かれているかいないかである。もちろん、キャラクターが描かれている方がキャラクターお守りである。実際に(図1)は表側に「勸学御守」とお守りの名が記されており、(図2)と(図3)は、それぞれキャラクターが描かれている。表側の見た目から(図1)は一般的なお守りであり、(図2)と(図3)はキャラクターお守りであると認識することができる。そして裏側は、(図1)と(図2)では、神社名が記されている。(図3)では、裏側にはそのキャラクターの名前が記されている。(図1)と(図2)は共通しているが、(図1)と(図3)では違いがある。つまり、(図2)と(図3)もこの点では共通しておらず、同じキャラクターお守りでも違いが見られた。(図2)のキャラクターお守りは、神社で取り扱われているものであるため、裏側にはその神社名が記されており、同じく神社で取り扱われている一般的なお守りである(図1)と同様であった。一方で、これら2つとは違い、神社ではなく店舗で販売されている

キャラクターお守りである(図3)は、神社名はなくキャラクター名が記されていた。このことから(図3)は、お守りよりかは商品らしさを感じられた。

見た目の点ではそれぞれにこのような違いが見られた。ではお守りが持つ機能面ではどうなのか。キャラクターお守りを購入する人々は、購入するこのキャラクターお守りに対して、信仰心を持っているのか、それともお守りをキャラクターの描かれているグッズとして認識しており、グッズ集めなどの目的であるのか。お守りとキャラクターお守りについてさらに明らかにするために、(図1)、(図2)、(図3)のお守りの中身をそれぞれ見たいと思う。中身を開け、その中には何が入っているのかを明らかにし、それぞれ比較する。

まず(図1)の一般的なお守りである北野天満宮の勸学御守の中を開けると、護符と護符を守る厚紙が出てきた。〔図4〕護符には、「北野天満宮 勸学御守護」と記されている。続いて、(図2)の神社で取り扱われているお守りである等乃伎神社のキティちゃんのお守りの中を開けると、北野天満宮の勸学御守と同様に護符と厚紙が出てきた。〔図5〕護符には「御守護」と記されている。厚紙には「sanrio」と記されているシールが貼られ、先ほどとは少しではあるが違いが見られた。最後に(図3)の店舗で販売されているキャラクターお守りである鬼滅の刃というアニメのキャラクターである我妻善逸のお守りである。中を開けると、神社で取り扱われているお守りである先ほどの2つのお守りとは違い、護符が入っていなかった。〔図6〕そして、護符の代わりに透明のキーホルダーのようなものが入っていた。そこにもそのお守りのキャラクターが記されていた。

この結果、お守りの中身はそれぞれ護符とキーホルダーのようなものが入っていた。護符が入っていたのは一般的なお守りである北野天満宮の勸学御守(図1)と神社で取り扱われているキャラクターお守りである等乃伎神社のキティちゃんのお守り(図2)であった。店舗で販売されているキャラクターお守りである我妻善逸のお守り(図3)は護符が入っていなかった。お守りには護符が入っていることから、護符が入っていなかった我妻善逸のお守りはグッズとしてのお守り

と認識されるのではないかと考える。また、他の店舗で販売されているお守りの中身はどうか、(図3)と同じように中身に護符は入っていないのかどうかを確かめるために他の(図3)と同じ部類に入のお守りの中身を見ていこうと思う。(図7)は店舗で販売されている「健康長寿」と記されたキャラクターお守りである。(図3)のお守りと違い「健康長寿」と記されており、よりお守りらしさを感じることができる見た目となっている。ただ、この点以外は(図3)と同様である。中を開けると厚紙とシールが出てきた。[図8] このお守りも(図3)のお守りと同様に中には護符が入っていなかった。護符の代わりにシールが入っており、こちらもやはり商品らしさを感じられた。

第2節 キャラクターお守りの定義

神社で取り扱われているお守りには護符が入っており、店舗で販売されているお守りには護符が入っていないことが分かった。このことから、神社で取り扱われているキャラクターお守りと店舗で販売されているキャラクターお守りの違いは中に護符が入っているかないかが大きな点であるといえる。

店舗で販売されているお守りには護符が入っていなかったため、お守りではなくお守りの形をした商品としての認識ができる。中身は護符ではなく、キーホルダーなどの商品であり、販売している側はお守りとして商品を販売しており、中身のキーホルダーなどを商品とはしていないので、外側のお守りの袋が主要であり、中身はその次となっている。昔のように中身であるお守り・護符を持ち歩くためにお守り袋を入れていたものが、現在みられるキャラクターお守りは、お守り袋をデザインし、お守りらしさを出すために護符の代わりとなるキーホルダーなどを入れるというものに変化しているということが分かる。

一方で、神社で取り扱われているキャラクターお守りには護符が入っていたため、こちらはお守りとして認識することができると思う。店舗で販売されているキャラクターお守りも社寺で取り扱われているキャラクターお守りもどちらも「キャラクターお守り」という点では共通して

いるが中身はそれぞれ違い、社寺で取り扱われているキャラクターお守りは、外側の袋にキャラクターが描かれたお守りである。

また、神社が提携している一般的なお守りではない特殊なお守りも、神社で取り扱われているキャラクターお守りと同じ分類に入れることができる。その例として京都の右京区にある芸能神社としても知られる車折神社の特殊なお守りをあげる。(図9)は車折神社とタワーレコードがコラボしたお守りであり、車折神社の社務所とタワーレコードの店内で販売されている。片方は一般的なお守りと同じ見た目であるが、もう片方には推しなどの好きな芸能人の写真などが入れられるような作りとなっている。一般的なお守りのように「神席祈願」と神社名が記されているが、それに加えて「TOWER RECORDS」とも記されており、神社名と会社名は縦向きではなく横向きで下に記されている。このような一般的なお守りとは違うという特殊な点でキャラクターお守りと共通しているといえる。そして中身を確認してみると護符と厚紙が入っていた。[図10] このことからこのお守りもお守りとして認識することができるといえる。

第4章 お守り袋とキャラクターお守り

第1節 キャラクターお守りの立ち位置

お守り袋の認識が昔と現在では変化していることがこれまでで分かった。そのような傾向の表れとして特に強いのがキャラクターお守りの存在であると私は考える。社寺ではお守りやお札が多くあるが、その中でも現在は様々な種類のお守りが取り扱われるようになり、お守りの袋にキャラクターが描かれているお守りも多く神社や寺で見られるようになった。こうしたキャラクターお守りの登場により、神社や寺ではより個性的な柄のお守りが増えた。さらに店舗でもお守りを模したお守りが見られるなど、お守りの多様化や商品化が社寺以外でも進んでいる。他にも店内にお守り用のガチャガチャが設置されていたり、社寺の境内にお守りの自動販売機が設置されるなど、この点からもお守りが商業主義的な傾向にあることが分かる。

キャラクターお守りと現代の人々のお守りに対する認識

本章では、神社で取り扱われるキャラクターお守りについて、お守りやキャラクターお守りが作成される過程についてなどをそれぞれ神社の宮司の方、会社の担当の方にお話を伺った。そこで聞いた内容をまとめながら、キャラクターお守りや現在のお守りに対する人々の認識、そしてそこから店舗で販売されるお守りの形をしたキャラクターお守りや特殊なお守りについても考察していこうと思う。

第2節 聞き書き 神社のキャラクターお守り

第3章で取り扱ったキティちゃんのお守りをはじめとして多くのキャラクターお守りを揃えている等乃伎神社に伺った。等乃伎神社で聞き書きを行おうと考えた理由は、キャラクターお守りに加え、他の神社にはない珍しい名前や形のお守りを多数取り揃えているなど、この神社はお守りの種類が豊富で印象的であったからである。

等乃伎神社は、大阪府高石市取石にある神社で、天児屋根命を主祭神としている。752年にこの領地を治めていた中臣殿来連竹田売という人物が祖先である天児屋根命を祀ったことが始まりとされている。「よそでは手に入りにくい御守」



等乃伎神社入口付近に掲示。(2023年12月5日撮影)

とあり、授与所には実際に交通安全や厄除け、合格祈願、縁結び、病気治癒などといった一般的なお守りに加え、カラオケ上達やスポーツ上達、美人守などといった特殊なお守りがある。そして、キャラクターお守りには、キティちゃんやリラックマ、ウルトラマン、トーマス、ゲゲゲの鬼太郎

などがある。このように多くのお守りがあり、約380種類のお守りを取り扱っている。

等乃伎神社の宮司であるIさんによるとこれらのお守りはこの神社でのみ取り扱っているものとの他の神社でも取り扱っているものがあるという。その中でキティちゃんやリラックマ、ウルトラマンなどのキャラクターお守りは他の社寺でも取り扱われているものであり、それをこの神社でも取り入れておられるようだ。これらのキャラクターお守りは京都にあるキャラクターや特殊なお守りを制作する某会社に依頼し、仕入れているという。

Iさんは40年ほど前(約1983年頃)からこの神社に宮司として携わられていたようだ。携わられた当初は、キャラクターお守りや等乃伎神社にしかない限定のお守りはなく、一般的なお守りだけだったという。そこで、ご自身でキャラクターお守りや他にはあまり見ないような特殊なお守りを取り入れようと考えられたそうである。そのきっかけとしては、ご自身が特殊なお守りに興味があったから、そして、他にはないようなお守りを出すことでより多くの人々にこの神社へと足を運んでいただきたかったから、そして多くの人々にこの神社の魅力を知って欲しかったからという考えがあったからだとおっしゃっていた。

初めにご自身で取り入れたという特殊なお守りは、キティちゃんのキャラクターお守りだという。現在でもキティちゃんの柄のお守りは取り扱っているが、同じキティちゃんでも柄に違いがあり、初めに取り入れたとされるキティちゃんのキャラクターお守りは、現在は神社にも残っていないという。取り入れた時期は宮司として携わられてから約2年後とのことだそうで、1985年頃だと思われる。キティちゃんのお守りを取り入れた理由としては、当時、キティちゃんのブームが日本で起こっており、人気だったために取り入れたという。結果として、売り上げは上がり、キティちゃんのお守りを取り上げる前よりも参拝客は大幅に増えたという。そして、この流れに乗り、その他のキャラクターお守りやこの神社限定のお守りを次第に増やしていったという。

そして、キャラクターお守りは地域を問わず多くの人々に購入されるようになり、特に若い女性に人気があるという。キャラクターお守りを購入

される理由としては、お守りの柄がかわいらしいからというのが最も多いそうだ。このことから参拝が目的で、それに加えてお守りを購入する方もいるが、キャラクターお守りを目的として来られるという方も多いということが考えられる。また、かわいらしいからという理由のみならず、柄が珍しく他に見ないから、面白いからという理由で購入される方も多いそうだ。

このお守りが欲しいからこの神社に行きたい、この神社でないといけないという方もおり、それが参拝客の集客に繋がっているそう。「よそでは手に入りにくい御守」とし、よりその神社に個性を出しているということが分かる。神社に客を集める、他の神社との差別化を図るためにもキャラクターお守りはそのようなことを満たす役割を持っていると考えられる。キャラクターお守りを取り入れることによってそれらが可能になりやすくなるのであれば、この等乃伎神社だけでなく、他の社寺（特に参拝客の集客を重要視されている、活気が欲しいと考えられている中小規模の社寺など）はキャラクターお守りに対して必要性を感じると考えられ、社寺でキャラクターお守りが取り入れられた背景の一つであると考えた。もちろん、宮司のIさんのもう一つの考えのように特殊な面白いお守りに興味があるから取り入れたという場合もあり、必ずしもキャラクターお守りを取り入れている全ての社寺がそのような理由で取り入れたとは限らないが、それでもほとんどがそのような理由であると思われる。

このような、女性や子どもに受けが良いようなかわいらしいお守り、他にあまり見ない珍しく、面白いお守りを販売することによって参拝客が集まり、お守りを購入される方が多くなるという構図から、お守りを購入するという行為は、自身の祈願のための宗教的なもの他にかわいらしい、珍しい商品を記念に購入するという商業的な要素がそこから感じられる。また、第1章第3節で取り上げた島田裕巳が述べる、「神社や寺院を訪れば、その証としてお札やお守りを求めるようになる」（島田 2022、27 頁）という、昔の若者にも見られた、社寺に来たという証拠を残しておくためにお守りを購入するという考え方にも似ている点がある。

第3節 聞き書き

お守り袋から考えるキャラクターお守り

全国の多くの社寺の中には自らお守りの制作を担当する所もあるが、お守り・お守り袋の作成を会社に依頼するという所が多い。多くの社寺と提携し、依頼を受け、お守りやお守り袋の作成を担当する会社はいくつかある。その中で京都市内の授与品奉製会社に行き、担当の方（採用担当・18年前頃に入社）にお話を伺った。この会社で聞き書きを行おうと考えた理由は、伝統と人々の想いを重視しつつ、新たな挑戦もし、生地から自社で一貫生産を行うほどの知識や技術力を持つとされていたためである。

この会社はお守り袋を中心とし、おみくじや絵馬などの授与品を作成している。その中でもお守り袋については、多くの種類を担当しているという。これまでに担当してきたお守り袋は一般的・伝統的な柄、そしてキャラクターの柄だそうだ。その中でも一般的・伝統的なお守り袋の制作の依頼の方がキャラクターお守りに比べて多いそうだ。また、社寺によってキャラクターお守りの依頼があるかどうかとも変わってくるという、昔からの伝統を意識しているような所はキャラクターお守りが取り入れられず、一般的な柄のお守り袋の依頼だけであるという。一般的なお守りの柄としては、伝統的な、日本に古くから伝わる和柄のものが多いという。

キャラクターお守りの柄としてはドラえもんなどの有名なアニメのキャラクターの柄やキティちゃん、サンリオなどのキャラクターの柄であるという。また、その神社や寺がある地域特有のお守りも作成したことがあるとおっしゃっていた。例えば、地域限定のゆるキャラやマスコットキャラクターなどである。その地域の顔ともいえるキャラクターの柄のお守りであり、そのお守りはその神社や寺に個性を出すことができるものとなるという。このお守りもキャラクターが描かれている点や特殊な柄であり、伝統的な柄のお守りから逸脱している点からキャラクターお守りと同じ部類のお守りに入るといえる。そしてこれらのキャラクターお守りについて、キャラクター（サンリオキャラクターなど）の著作権問題については、会社側は特に関与しておらず、依頼された神

キャラクターお守りと現代の人々のお守りに対する認識

社や寺側が担当しているようだ。

キャラクターお守りや地域限定のような特殊なお守りの依頼は少ないとはいえ、現在増えてきているという。このように社寺がキャラクターお守りなどを依頼する背景として考えられることは、第2節でも挙げたように参拝客を増やすためやそれにより多くの人々に魅力を知ってもらうというものであることが多いようだ。数ある神社の中にはこのような理由のために参拝者に向けて屋台などのイベントを行っており、キャラクターお守りなどを一般的なお守りとともに授与所に取り入れるというのもその一環であるという。

このようなお守り袋がどのようにして作られているのかについて、お守り袋の制作の流れについて伺った。始めは社寺の方からこのようなお守り袋を取り入れたいので袋の柄を制作していただきたいという依頼から始まるという。その際、会社側は社寺の方と柄を決める話し合いを行う場合や社寺側から柄を予め提案される場合があるという。そこから会社側は決められた柄をデータに移し、織物にして袋の柄を織ってお守りを制作していくようだ。その後、護符を袋に入れてお守りとして完成し、検品作業を通して依頼された社寺へと授与するという流れである。

護符を袋に入れるというところのこの護符は社寺から頂いたものであるようだ。護符は社寺側がご祈禱を行い、その後会社の方に預けられるという。したがって、護符が会社に預けられる時には護符は普通の紙ではなく、ご祈禱を行い、神仏の力が宿った紙として扱われることとなる。また、ご祈禱の際はそれぞれの願いに応じた祈りがその護符に込められるという。例えば、学業成就のお守り袋に入れる護符であれば、ご祈禱の際に学業が成功するようという祈りが込められるという。キャラクターお守りの場合は、キャラクターだけが描かれているなど、〇〇祈願といったような願望が記されていないものがある。このような場合は、ご祈禱の際に護符に心願成就の思いが込められているようだ。心願成就とは神様や仏様などに心から祈り、信じることで自身の願いを実現させていくことを意味する。また、キャラクターお守りだけでなく、願望が記されていない柄だけのお守りも心願成就が込められた護符であるという。

創業時はまだキャラクターお守りの柄の依頼はなく、一般的な柄のお守りのみを作成していたという。素材は着物や帯に使われていたものやそのような柄が中心であったようだ。この会社の創業は1974年（昭和49年）であり、そこからドラえもんやキティちゃん、サンリオなどのキャラクターが誕生し、キャラクターお守りや小型化されたお守りの依頼が来るようになり、制作するようになっていったという。これらのドラえもんやキティちゃん、サンリオなどのキャラクターの柄のお守りを制作してほしいという依頼が社寺から会社側に来るようになるのは、これらのキャラクターが誕生し、世間でもある程度の認知と人気を獲得し、人々からのニーズが高まってきた頃からであったという。

この会社では社寺からのお守り袋の依頼は全て担当しているが、社寺以外のお守り袋の依頼は担当していないようだ。アニメのグッズを制作する株式会社からアニメのキャラクターお守りを制作したいと依頼があることはこれまでに数件あったそうだが、護符のないお守り、店舗で販売される用のキャラクターお守りの袋の制作に関しては断っているとのこと。社寺を訪れて、お守りを購入される人々に対して少しでも安心感を与える、努力の後押しをする、ご利益を感じられるといったような仕上がりにするなどお守り袋に「想い」を込めて制作に取り組む理念があるので、護符のない、グッズとしての意味合いが強い店舗でのキャラクターお守りは制作を担当しないとしているようだ。この会社では、神社でのキャラクターお守りと店舗で販売されるキャラクターお守りの区別が明確にされている。

第4節 一般的なお守りと

キャラクターお守りについてのまとめ

一般的なお守りとキャラクターお守りの違いについて、これまでに分かったことをまとめる。お守りとキャラクターお守りは袋にキャラクターが描かれているかいないかが違いである。他にも中に護符が入っているかいないかも違いであった。しかし、キャラクターお守りには神社で取り扱われるものと店舗で販売されるものがあり、神社で取り扱われるものには一般的なお守りと同様に中

に護符が入っており、店舗で販売されるものには護符の代わりにキーホルダーのようなものやシールが入っていた。さらに、車折神社とタワーレコードのお守りのような特殊なお守りは、神社で扱われており、中に護符が入っていた。このことから一般的ではないキャラクターお守りや特殊なお守りも社寺で取り扱われているかいないか、または中に護符が入っているかいないかで違いが見られる。一般的なお守りと社寺で取り扱われるキャラクターお守りや特殊なお守りは社寺でご祈禱された護符が入っており、お守り袋を奉製する会社を通してお守りとして完成するためお守りとして認識することができる。一方、社寺で取り扱われておらず店舗で販売されているお守りには、中にご祈禱された護符がなかったため、お守りではなく、お守りを模した商品として認識することができる。

昔からある一般的なお守りは時代の変化や人々のニーズなどによって多様化し、様々な形のものが増え、その中でキャラクターお守りも誕生し、現在でも一般的なお守りに加え、キャラクターお守り、特殊なお守りは「かわいい」、「珍しい」、「面白い」などという理由から若者を中心に多くの人々に支持を得て人気が続いている。人々がお守りを購入する背景には、自身の願望を叶えてほしい、持って安心感を得たいという宗教的なものと、好きなキャラクターの柄であるから、人気があるから、参拝の記念としてなどという商業主義的なものがあり、現在はそれらが共存している。キャラクターお守りや特殊なお守りは商業主義的な考えが発展したからこそ誕生したものであるといえる。

第5章 推し文化との関係性

第1節 推し文化との共通点

人々がお守りに頼る行為から見られる人々のお守りに対する信仰心やお守りを求めることについて、現在よく耳にするようになった、推し文化と何か共通している点があるのではないかと考えた。この章では推し文化との関係性について考えていこうと思う。

まず初めに「推し」とは、応援しているファン

対象の呼称である。特に若者を中心にSNSなどを通して人気となり、推し文化が広まっていった。一般的に応援する側、つまり推す側はファンであり、応援される側、推される対象となる側はアイドルやアニメのキャラクターなどである。

これは人々が神社や店舗を訪れ、お守りやキャラクターお守りを求め購入する行為にも似ている所がある。先ほどの構図に当てはめるとするならば、推す側が購入者であり、推される対象となる側はお守り・護符に宿る神や仏である。また、キャラクターお守りの場合は、神社で取り扱われているキャラクターお守りは、推される対象となる側に、神仏に加え、キャラクターも当てはまるのではないかと考える。店舗でのキャラクターお守りの場合は、推される対象はキャラクターである。このように推し文化とお守りやキャラクターお守りを求める行為が共通している所があるといえる。

このことについて、三浦展も「アイドルはファンの期待に応え、あるときは預言し、あるときはファンを救済する宗教的な存在である。そもそもアイドルとは偶像という意味である。つまり神や仏を形にしたものである。あるいは神や仏に近い存在をアイドルと呼ぶ。だから推し活は宗教行動の機能的等価物であると言っても全然おかしくない。」(三浦 2023、37頁)と述べている。

このようにアイドル及び推される側は推す側(ファン、購入者)にとって自身を癒す、救済してくれるような存在でもある。推す側は、グッズを購入したり、イベントに参加する、推しのコンテンツを視聴するなど、自身の金銭面や時間を消費し、様々な手段で推す対象の人物や物に対して愛情を注ぐ。推される側はそれに応え、推す側に対して癒しや救済、それに加え、3次元のアイドルなどであればライブパフォーマンスやファンサービス、認知という行為など、お守りであれば勇気や安心感などを推す側に対して与える。こういった関係性が推す側と推される側にあるといえる。

第2節 アイドル・キャラクターの神聖化

推す側(ファン)にとって推しは、夢中になれる人・物であり、自身の癒しや救済となることから生きていくうえでとても重要な存在であるこ

キャラクターお守りと現代の人々のお守りに対する認識

とが分かる。「さまざまな形で推しが生活の一部になっている」(牧 2023、42 頁)とあるように、ファンはインターネットやライブ、グッズ購入などを通して生活の中に推しを取り入れている。その中でも推しの写真やグッズは自身の記憶だけでなく、形として残す、取り込むことができる。韓国発の人気グループである「SEVENTEEN」の 2022 年 11 月 26 日に東京ドームで行われたコンサートでは、「コンサートの開演に先立って販売される限定グッズやペンライトを求め、26 日の早朝前から多くのファンが会場に殺到。」(web 資料、中日スポーツ・東京中日スポーツ、2022.11.26)とあることから分かるように、アイドルやアニメなどのキャラクターのグッズが販売されるとそれを購入するというファンは多い。そして、X でも推しグッズに関連したポスト(投稿)が見られる。例えば、える L さんは「入院中推しグッズがこんな人心の支えになるとは思わなかった、、眺めてるだけで元気出る(以下省略)」⁽¹⁾と入院している部屋に自身の推しグッズを飾っている様子をポストしている。また、ゆびさんは「昨日には間に合わなかったけど並べてみました～ 推しグッズは見てるだけで幸せな気持ちになるね 活力活力」⁽²⁾と、自身の部屋に推しグッズを飾っている様子をポストしている。oyuLAYO (V) ER さんは「これから初めての保護者会。かなーりドキドキ。願掛けで薬指とバックに TATA を。TATA を心のお守りにして行きます」⁽³⁾と、TATA という 3 次元の韓国アイドルに関連するキャラクターのグッズを自身のネイルとバッグに飾っている様子をポストしている。このことから、グッズの購入者は、キーホルダーや缶バッジ、うちわ、ポスター、ぬいぐるみのような商品を部屋や鞆、財布など自身の身近な所に飾る人もいる。こうした身近な所に推しのアイドルやアニメなどのキャラクターを飾ることによって、癒されたり、安心を感じたり、毎日見るだけで勇気を貰えると感じることができるファンもいる。

このように感じるのは、グッズに描かれているのが「推し」だからである。もしキーホルダーやポスターに描かれているのが推しではない人物やキャラクターもしくは無地のデザインであればそこに癒しや安心感は生まれなくなるし、そもそも

購入しようとは思わないと思う。どのような素材のキーホルダーやポスターなどの商品であっても購入して癒されたい、元気が貰えると思えるのはその商品に好きな推しが描かれているからである。推しが描かれていることによってキーホルダーやポスターほか様々な商品に癒しなどを与える効力のようなものが備わるのである。

これは当然商品にそのような力が備わっているのではなく、推す側の思い込みのようなものである。推す側の思い込みが、その推しが描かれた商品の価値を自分自身で高めている。その商品に描かれているアイドルやアニメのキャラクターの推しではない他者は、その商品に特別さはおそらく感じないだろう。このことについて、久保(川合)南海子は「物理的なモノに、自分の認識が付加される働きかけのプロセスがある」と明らかにし、「対象(世界)と自分の関係性において、自分がどのように対象(世界)を認識するだけでなく、自分は認識をどのように対象(世界)へ付加していくのか」というところの働きがあると述べる。(久保 2022、29～33 頁)これは推す側と推される側だけではなく、お守りの購入者とお守りにもみることができ、購入者がお守りの効果を信じ、常に身に付けることで安心を感じる、勇気をもらうなどということは、先ほどのファンが推しのグッズに対してする認識と共通している。このようにファンは、推しのアイドルやアニメなどのキャラクターに対して神や仏に値するような、自身を癒し、救済してくれるような存在という認識を持つ。こうして推しのアイドルやアニメなどのキャラクターはそういった一部のファンによって神聖化される。

第 3 節 店舗で販売される キャラクターお守りの需要

店舗で販売されるキャラクターお守りを求め、購入する理由としては推しに関連している商品だからであると考えられる。ファンはキーホルダーやポスターなどのように商品としてお守りを購入する。そして、身近な所に飾り、癒しや救済などを得る。ただ、お守りは他の商品と違い願望の気持ちをより高めることができ、また、神仏の力が宿っていると思わせる効果があるものでもある。

だからこそより癒しや救済、安心感を描かれている推しに求めるのではないかと思う。また、「健康長寿」や〇〇祈願などといった願望が記されている場合は購入者に向けた癒しや救済、安心感への対象が記された願望の方にも向けられる。しかし、店舗で販売されるキャラクターお守りはいずれもお守りの形をしているがお守り風の商品であるため社寺でご祈祷された護符は入っていない。それでもそこに願望を叶えてくれるような神仏の力が感じられるようになるのはファンが推しに対して神仏に値する特別な存在であると思いつからである。例え中に護符が入ってなくても袋に描かれた推しを重視するのである。このように店舗で販売されるキャラクターお守りは、アニメなどの作品の1つの商品でありながらも、「お守り」という宗教的な面を残し、ファンによって神聖化されたキャラクターでファンを救済・応援するなど様々な形で生活の一部を支える役割を持ったものとなっていると思われる。

おわりに

こうしたキャラクターお守りの誕生や人気・需要の背景から現在の人々がお守りに対してどのように認識しているのかについて、「願いを叶えてくれるもの」、「自身の身を守ってくれるもの」、「災いの予防的なもの」というような昔からあった認識は薄れ、「日常生活の中で少しの癒しや救済、安心感を与え、支えてくれるもの」、「一歩踏み出すのを後押ししてくれるようなもの」という認識へと変わっていったことが見られる。キャラクターお守りの登場とそれらの人気がこのような認識の変化を表しているともいえる。また、人々のお守りに対する宗教的意識はなくなったわけではなく、そこに商業主義的な考えが加わっているのではないかと考える。店舗でのキャラクターお守りは宗教的な要素と推し文化の融合を叶えたものであるといえるのではないだろうか。

社寺で取り扱われているお守りやキャラクターお守りには社寺にてご祈祷された護符が入っている。ご祈祷され、その護符に神仏の力が宿っていると、そのお守りを身に付けている人の願望が必ず叶うのかと言われたら、願望の内容や人

それぞれではあるが理想の状態に近づきやすくなるはあっても必ずしも全員の願望が全て思い通りに叶うとは言い切れない。お守りを身に付けることにおいて重要なのは願望が叶うと信じ、思い込むことやお守りを通して神や仏に応援され、上手くいく、と自分自身を勇気づけることが大事なのではないか、そしてお守りにはそのような役割があると思う。自分自身が参拝に行った社寺のお守りに宿る神や仏に応援されていると信じる・思い込む、店舗で購入したキャラクターお守りに描かれたキャラクターに応援されていると信じる・思い込むことで勇気をもらうことができ、それにより行動できやすくなることによって自身の願望が叶いやすくなるのではないかと思う。キャラクターお守りには推しに勇気をもらうということを「お守り風」の商品にすることでその形をより明確にさせる役割があるのではないかと考える。今後、時代に応じた今までにない様々な形・種類のお守りが誕生したとしてもお守りから癒しや救済、勇気をもらうという点は残り続けるだろうと思う。

【図一覧】



(図1) 北野天満宮 勸学御守
表側と裏側



(図2) 等乃伎神社 キティちゃんお守り
表側と裏側

キャラクターお守りと現代の人々のお守りに対する認識



〔図3〕鬼滅の刃 我妻善逸お守り
表側と裏側



〔図4〕北野天満宮 勸学御守
中身



〔図5〕等乃伎神社 キティちゃんお守り
中身



〔図6〕鬼滅の刃 我妻善逸お守り
中身



〔図7〕リトルパスターズ! 三枝葉留佳
「健康長寿」お守り 表側と裏側



〔図8〕リトルパスターズ! 三枝葉留佳
「健康長寿」お守り 中身



〔図9〕車折神社 推し活お守り「神席祈願」
表側と裏側



〔図10〕車折神社 推し活お守り「神席祈願」
中身

【注】

- (1) X ポスト 最終閲覧日 2024 年 1 月 11 日
<https://x.com/erueru217/status/1530288467175174144?s=46&t=NkygaXtzEJl-W-3NMMINOQ>
- (2) X ポスト 最終閲覧日 2024 年 1 月 11 日
<https://x.com/vagqs7gnxvhltn/status/1665797099928322048?s=46&t=NkygaXtzEJl-W-3NMMINOQ>
- (3) X ポスト 最終閲覧日 2024 年 1 月 11 日
<https://x.com/6oyu6/status/1405328606763487233?s=46&t=NkygaXtzEJl-W-3NMMINOQ>

【引用文献・参考文献】

- 『國史大辞典 2』 第 1 版 1980 年 吉川弘文館
 『國史大辞典 13』 第 1 版 1992 年 吉川弘文館
 久保 (川合) 南海子 『「推し」の科学』 集英社新書、2022 年
 島田裕巳 『護符図鑑：悪疫封じから願望成就まで 神頼みは日本古来の意識科学』 ビオ・マガジン、2022 年
 中日スポーツ・東京中日スポーツ 『SEVENTEEN グッズ販売打ち切りで批判殺到 東京ドームコンサート「ルール守って並ばせてすら貰えないって何?」』 2022 年 11 月 26 日 (最終アクセス 2024.1.11) <https://www.chunichi.co.jp/article/589411>
 鳥居本幸代 『お守りを読む—日本人は何を願ってきたのか』 春秋社、2022 年
 『日本民俗大辞典 上』 第 1 版 1999 年 吉川弘文館
 福田博美 2013 年 「守袋の変遷—懸守から胸守へ—」 『文化女子大学研究紀要』
 牧和生 『オタクと推しの経済学』 KANZEN、2023 年
 三浦展 『孤独とつながりの消費論—推し活・レトロ・古着・移住』 平凡社新書、2023 年